

enocoのそうだん [eno so done!]

相談シート17 市民の「こんなのやってみたい」を引き出し育てるところから企画を考える

[トップ](#) >> [enocoのそうだん \[eno so done!\]](#) >> 相談シート17

アドバイザー

醍醐 孝典 (studio-L ディレクター/東北芸術工科大学准教授)

1976年大阪府生まれ。大阪府立大学大学院修了。兵庫県、(財)京都市景観・まちづくりセンター等を経て2006年よりstudio-Lに参画。全国で地域まちづくり支援やコミュニティデザインに携わる。大阪では水都大阪2009「灯りプログラム」のディレクションなどを担当。東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科准教授、総務省地域創造力アドバイザー。共著書に、『まちづくりコーディネーター』（学芸出版社）、『地域を変えるデザイン』（英治出版）など。



相談者

某市生涯学習センター

相談分野 (キーワード)

地域活性

市民協働

観光

まちづくり

文化

広報・PR

その他

主な相談内容

地域の拠点として、市民のニーズを活かした計画を作成し実行する方法について教えてほしい。

Q 1

市民のニーズを活かした企画の立て方について教えて下さい。

A 1

市民活動の支援は「支援（お手伝い）」で本当にいいの？

テーマ設定（提案）を行うと良い動きが始まります。コーディネーター勝負にはなりますが、団体と話をしていて「こんなのやってみたい」が出たら、上手く拾って繋げて魅力的なプログラムにしていくことがポイント。

Q 2

市民活動を結びつける拠点になるにはどのような仕掛けが有効でしょうか。

A 2

コーディネートする上でのポイント

1) 活動する上での大切な3か条を念頭におく。

私がやりたいこと (will/wish)

地域が求めていること (Needs)

私ができること (can)

2) 公共施設のイベント企画で大事な3層ピラミットを意識する。

- 上：イベント（集客があって、大事だけど、年1～2回程度の実施にする）
- 中：講座（少しお金がかかる、週2回定期的に実施）
- 下：市民とつくるプログラム（お金がかからないけど、ずーっと常に実施している）

3) 拠点、自分たちの場所だ、と思ってもらえる仕掛けをつくる。
いつでもだれでもフラッと来れて、相談できる場所を作っていく。
例) みんなの本棚づくり（本のシェア）等

相談者の声

いつも接する人とは違った視点や発想をいただけて、「間違っていないな」と思えたり、「もっと自由に考えていいんだ」と思ったり、現在の立ち位置を把握することもできました。「地域にとって重要なのは福祉と社会教育」という言葉が聞けてとても嬉しかったです。施設の新たなビジョンを地域の方と共に描くにあたって、既存の枠にとらわれず、本来、社会教育が持っている素晴らしい考え方に立ち返り、生涯学習の概念から考えてみては、というアドバイスについて、まずは施設スタッフと共有し、当センターに相応しい形に落とし込んでみたいと思います。

サイトポリシー・ プライバシーポリシー	> enocolについて > 事業紹介	> お知らせ・プレスリリース > メルマガ登録	いいね! 0 ツイート	^
指定管理者	> フロアガイド > レンタルスペース	> ニュースレター > お問い合わせ		
バナー広告募集		> アクセス		